

味方 中学校区 (味方 小、 味方 中)

【目指す子どもの姿】

- ・ 自分で考え、互いを理解しながら支え合い、学び合う子
- ・ 味方に誇りをもち、自分に自信をもって日本や世界で堂々と活躍できる子

〈 「目指す子どもの姿」 の設定の仕方 〉

- ・ 味方中学校区の第一回小中一貫教育推進会議(H28.5.20)で、味方の子どもたちの課題と身に付けさせたい資質・能力を話し合った。この地域には「**高1ギャップ**」(高校進学後に人間関係でつまずいたり、挫折してしまったりする生徒の割合が高い)という課題があり、**その原因**として出された意見が以下の三点である。

(1)素直に従順だが、自分で考え、行動する積極性に課題がある。

(2)故郷への誇りや自分に対する自信がなく、コミュニケーション力や対人関係能力に課題がある。

(3)目標に向かって粘り強く努力するたくましさに課題がある。

これらの課題を克服するため、推進会議での議論を受けて小中の校長で話し合っただけで決めたのが、上記の【目指す子どもの姿】である。具体的なイメージ像は、この地域の先人で医学の分野で大きな業績を残した、味方村名誉村民「平澤興」氏である。

① 「9年間を見通した生活科・総合的な学習の時間」における小中一貫した教育としての取組

別紙参照：「味方中学校区における生活科・総合的な学習の時間を主とする計画」

〈 「身に付けさせたい資質能力」 とその実現に関わる方法について 〉

【身に付けさせたい資質・能力】

- ・ 課題解決への見通しをもち、**他者とかわりながら追求したり、分かりやすく表現したりする力を付け、生活や学習に活かす**ことができる。
- ・ **主体的に地域貢献活動**に取り組み、かわりを通して**自己肯定感と表現力**を高めながら、**自分と社会の将来について考えを深める**ことができる。

【その実現に関わる方法】

- ・ **身に付けさせたい資質・能力を地域と共通理解**し、その実現に向かって学校が地域の教育資源を最大限に活用する。
- ・ **地域の財産**「白根大風合戦」「旧笹川家住宅」「曾我・平澤記念館」を**学習の場**とし、それに関わって

いる**地域住民との交流を促進**する。併せて、**地域行事への積極的な参加**を促し、子どもたちに**他者と上手に関わる**ことのできる**社会性**を育てていく。

② 「9年間を見通した学習の仕方」の取組

「9年間を見通した学習の仕方」の内容

- (1)互いの授業を積極的に参観し合い、**小中相互の授業に対する理解**を深める。
- (2)「学び合い」を核とした『**主体的・対話的で深い学び**』の**創造**に小中で一貫して取り組む。
- (3)家庭学習の充実のため、次の三点に小中が共に取り組む。
 - ・授業と連動した宿題の工夫に小中で取り組む。
 - ・学習強調週間を小中で設定し、家庭学習を指導していく。
 - ・家庭学習を促すための手段として小中で「平澤興賞」を授与する。

目指す子どもの姿の実現のための「**生活科・総合的な学習の時間**」**単元配列表作成及び指導内容を検討**し、全職員が9年間の取組を理解する。【平成30年度の重点事項】

〈「9年間を見通した学習の仕方」の設定・運用の仕方〉

目指す子どもの姿「自分で考え、互いを理解しながら支え合い、学び合う子」の実現のため、小中の合同学習指導部会でどのような取組が必要か話し合った。その結果、授業改革の必要性を小中で確認し合い、児童生徒が主体的に学習課題に取り組み、「学び合い」を通して協働しながら課題解決に迫る授業づくりを互いに研究主題とし、取り組むこととした。質の高い「学習課題」の設定と「学び合い」の手立ての研修を核に、小中でファシリテーションやペア学習、グループワーク等を取り入れた授業づくりを行っている。

また、小中の職員が互いの授業に対する理解を深めることが何よりも重要という認識のもと、授業参観をはじめとした**職員の交流**を積極的に行っている。

③ 「小中一貫合同研修会」の取組

「小中一貫合同研修会」のねらいや次第・研修内容の概略

小中学校の全職員を ①授業力向上部会 ②生徒指導部会 ③特別支援教育部会 の三部会のいずれかに分け、それぞれの部会から「目指す子どもの姿」の実現のため、年度ごとにどんな取組が有効かを検討し、提案してもらっている。そのために必要な研修を各部で企画・運営している。

【平成30年度】

① 授業力向上部会

目指す子どもの姿の実現の観点から「生活科・総合的な学習の時間」で「味方への誇りと自分に対する自信」をどう育成していくかを小中で検討し、単元配列表と指導内容を決定する。

② 生徒指導部会

小学校は「学級力」の向上、中学校は生徒会活動を核としたボランティア活動の推進を通して、目指す子どもの姿を実現していくか、互いの取組に対する相互理解を深める。

③ 特別支援教育部会

- ・小中特別支援学級間の交流活動と児童生徒の情報共有。
- ・小中で授業における UDL を統一する取組。
- ・個別の教育支援計画、個別の指導計画の形式を統一する取組。

その他、**毎年職員が入れ替わるので、年度当初に小中一貫教育推進校としての歩みと、目指す子どもの姿が決められた経緯を小中の全職員で共通理解**する研修会を実施している。

〈「小中一貫合同研修会」の実施方法の工夫〉

小中一貫教育は**目指す子どもの姿を全職員が理解**し、同じ方向を向いて取り組めるかどうかが取組の成否を分ける。年度替わりに職員が入れ替わっても、目指す子どもの姿が決められた経緯を必ず**全職員で共通理解する時間**を大切にしている。

全職員が度々集まる機会を設定するのは小規模校といえども難しく、3つの部会がそれぞれ期日を別にして日程調整し、部会ごとの合同研修を実施している。

④ 「中学校区ごとの小中一貫教育推進委員会」の取組

「中学校区ごとの小中一貫教育推進委員会」のねらいやメンバー・次第・協議内容の概略

【メンバー】

味方コミュニティ協議会役員、学校評議員、PTA 役員、地域教育コーディネーター、学校職員

【協議内容の概略】※年2回開催

- ・中学校区における児童・生徒の課題と身に付けさせたい資質・能力の洗い出し【第1回推進委員会】
- ・目指す子どもの姿の確認と小中学校の具体的な取組方針説明と意見聴取【第2回推進委員会】
- ・パイロット校1年目の実践報告と次年度への改善点の説明及び意見聴取【第3回推進委員会】
- ・パイロット校としての2年間の総括及び成果と課題の確認【第4回推進委員会】
- ・今年度の取組の重点に対する説明と意見聴取【第5回推進委員会】

〈「中学校区ごとの小中一貫教育推進委員会」の実施方法の工夫〉

小中一貫教育推進委員会の委員が学校評議員やいじめ防止連絡協議会委員等を兼任しているので、3つの会議を同一日に開催している。

【目指す子どもの姿】

○自分で考え、互いを理解しながら支え合い、学び合う子
○味方に誇りをもち、自分に自信をもって日本や世界で堂々と活躍できる子



【「目指す子どもの姿」を実現するために、生活科・総合的な学習の時間で教育活動】

【身に付けさせたい資質・能力】

- 小 課題解決への見通しをもち、他者とかかわりながら追求したり、分かりやすく表現したりする力を付け、生活や学習に活かすことができる。
- 中 主体的に地域貢献活動に取り組み、かかわりを通して自己肯定感と表現力を高めながら、自分と社会の将来について考えを深めることができる。

【9年間を見通した学習の仕方】

- ・「授業における共通実践事項」
⇒IDLの観点から小中共通で学習環境や学習に関するUD項目を設定し、参観授業の指導案にも明記することで相互の理解を深める。
- ・「家庭学習の充実」
⇒①授業と連動した宿題や自主学習の工夫
②学習強調週間の設定
③「平澤典賞」の授与

【独自プログラム】

- ・あいさつ運動 月1回小6中3がお互いの校門で地域のボランティアとともにあいさつを行い、輪を広げている。
- ・小中で避難訓練の日を揃え、地震・水害に備えた訓練を実施している。また、水防学習に関する9年間の指導計画をH31年度に作成する。

味方中学校

学年	題材・単元名	主な学習内容	目指す子どもの姿を実現するための手立て
3	①修学旅行のまとめ ②地域の財産や先人に学ぶ	①修学旅行レポートの作成し、レポートをもとにグループでプレゼンテーションを作成し、発表会を行う。 ②地域の重要文化財について、講師を招いて歴史的価値と建築学的価値の2つの視点から学習を深める。ボランティア活動を通して文化財を将来的にどう活かし、守っていくのかについてファシリテーションを行い自分なりの考えをもつ。行政と連携しながら実現に向けたアプローチをする。	①自分が実際に体験したことについて、自分の言葉でまとめ、表現する力を高めるためにプレゼンテーションを作成し、伝える難しさと伝わる喜びを味わわせる。 ②地域の文化や歴史への理解を深め、愛好する心情を育てるとともに、手段や方法を工夫しながら、他者へ伝える力を身に付けさせる。 ③地域のニーズを探り、ボランティア活動を積極的に行うことで地域の課題を知る。課題解決に向けた取組を提案、実践、広報することで味方地域の一員としての自覚と誇りを醸成する。
2	①職業体験学習 ②修学旅行に向けて	①身近な人の職業を調査し、仕事内容や必要な資格等を知る。職業講話やマナー講習の実施。地域で職業体験学習を2日間行う。活動を振り返り、発表会を実施する。 ②訪問先の文化や歴史を学ぶ。体験学習を通じて、ものづくりについて事前学習を行う。偉人の足跡から将来の自分について考える。	①職場のニーズを探り課題解決に向けた活動にすることで、職業講話やマナー講習の知識や興味・関心を知り、将来の進路について考えを深めるよう準備と振り返りを大切にする。 ②京都大学を訪問することで地域の偉人である平澤興氏の足跡を訪ね、「人の役に立つ」生き方について考えさせる機会とする。
1	①地域の風作りに取り組もう ②農業体験学習	①資料館を訪問し、大風合戦の歴史を学ぶ。巻風製作や風合戦に参加する。活動を振り返り、プレゼンテーションを使って発表を行う。 ②地域の農家で体験学習を2日間実施する。学習したことをまとめ、発表する。	①地域行事の歴史を学び、実際に製作・参加することで、地域の一員としての自覚と誇りを高める。 ②地域の農家からのニーズに応じて、事前に課題解決の方法を考えることで、主体的なボランティア活動を行う。農家の役立つ活動を行うことで自己肯定感を高める。

味方小学校

学年	題材・単元名	主な学習内容	目指す子どもの姿を実現するための手立て
6	①「会津体験教室を成功させよう」 ②「もっと知りたい！ふるさと味方」 ③「夢に向かって」	①会津の文化や歴史、自然について調べ、会津市内巡りや唐人風作り体験を行う。 ②大風や大風合戦について調べ、地域の人々の大風に対する思いを知る。 ③郷土の偉人である『平澤興』氏の生き方を学んだり、職業体験を通して、自分の将来の夢と今、自分ができることを考える。	①会津若松市の歴史や文化を知り、味方と比較することで味方の特長を理解につなげる。 ②大風や大風合戦について調べ、地域の人々の大風に対する思いを知ることを通して、味方に住む地域の一員としての自覚と誇りを醸成する。 ③将来の職業について考え、どうすればその職業につけるのか道筋を学習し、夢の実現に向かって努力し続けることの大切さに気付かせる。
5	①「みんなの笑顔を真ん中に！～お米に願いをのせて～」 ②「お米で支援の輪を広げよう」	①地域の環境や米作りについて調べながら稲作活動をする。地域の専門家との交流を通して学習を深める。 ②学校田での米作り、米頒布を通して社会体験をする。被災地の様子について調べ、被災者への支援活動について話し合い実践する。	①おいしく安全な米を作るために必要なことは何かを考え、めあてを実現するためには友達と協力して活動することの大切さについて考えさせる。 ②米作り体験と支援活動を通して、被災地への思いをもつとともに学んだことや身に付けたことを学習や生活に活かそうとする意欲を高める。
4	①「われら笹川邸広報隊！」 ②「思いやりの心を届けよう！」	①平澤氏ゆかりの越前西遊寺を訪ねたり、越前小の児童を招待してガイドをしたりする活動を通して、笹川邸について学ぶ。 ②障害者や高齢者に対する理解を深め、福祉施設訪問を通して自分たちで企画実行する。	①笹川邸や皆我・平澤記念館に関する知識を深め、地域のガイドボランティアから学ぶことによりガイドとしてのスキルを学ぶ。調べたことを分かりやすくガイドする活動を通してコミュニケーション能力を育む。 ②調べ学習や福祉施設体験を関連させながら、高齢者の立場に立って考えさせることで相手の立場を考え自分から行動する意欲につなげる。
3	①「とび出せ！味方探検隊！」（地域） ②「とび出せ！味方探検隊」（食）	①味方地域にある文化財や施設、公園等についてテーマを決めて調べ、調べて分かったことをまとめる。 ②地域の食文化や伝統食について調べ、特産物を使った伝統食作りを体験する。	①調べ方を学び、地域の人と交流しながら味方地域について調べて分かったことをレポートや新聞等にまとめる。いろいろなまとめ方を知ることで伝え方を身に付けさせる。 ②地域の特産物による伝統食作りを体験し、伝統食のよさを理解することで食という観点から地域のよさを知る。
2	①「町のすてき大はっぴ見」	①住んでいる町について知っていることやもっと知りたいことを話し合い、町探検に出かけて調べる。 調べ方やまとめ方を学び、クラスごとに分かったことを伝え合ったり、質問し合ったりする。また町のためにできることを考え、行動する。	①町探検で人・もの・ことにふれることで、町のよさを実感する。また町のためにできることを考え、行動することを通して役に立つ喜びを味わわせる。
1	①「あそびにこようよ」	①季節ごとに地域の公園に行って、その季節を感じられるものと触れ合ったり、遊んだりして楽しむ。地域のお年寄りから昔の遊びについて教えてもらいながら楽しむ。	①学校周辺の公園に行き、自然や地域の方と触れ合ったり遊んだりして地域を知る。地域の方と触れ合ったり遊んだりして昔の遊びを体験することで、楽しさを共有する。